



# 施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602  
3月の休館日：2月・9月・16月  
・23月・30月

3月8日(日) 13:30～  
**お楽しみコンサート「春」  
スプリングコンサート**  
出演：ひこね第九オーケストラ  
☆3月はオーケストラを紹介。本格的な名曲や、身近なあの曲、指揮者体験コーナーもあり、オーケストラを身近に楽しんでみよう！  
【鑑賞無料】

3月13日(金) 18:30～  
**スカイウォッチャー演奏会**  
出演：ミルフィーユ・カルテット  
☆星空のお話、コンサート、天体観望が一つになった、ロマンティックコンサート  
【自由】ペア300円、シングル200円【好評発売中】

3月26日(木) 13:30～  
**高校演劇フェスティバル**  
☆出場高校：彦根西高等学校、彦根東高等学校、長浜北高等学校、長浜北星高等学校【鑑賞無料】

2回シリーズ  
**ひこね音楽夜話「クラシック事始」**  
4月24日(金) 19:00～  
**第1話 ピアノから見る音楽の歴史**  
☆約300年のピアノの歴史を、わかりやすい解説を交えながら、バッハ、モーツァルト、ショパンの名曲とともにひも解きます。  
6月12日(金) 19:00～  
**第2話 よーい！ハイドン・もっとモーツァルト・だからブラームス**  
☆ピアノと弦楽四重奏で名作曲家に迫ります。(解説付き)  
【自由】一般2回シリーズ券3,000円 1回券2,000円  
18歳以下2回シリーズ券1,000円 1回券700円  
【好評発売中】

5月8日(金) 19:00～  
**山下洋輔 ニュー・カルテット**  
☆最もエキサイティングな山下洋輔カルテットのライブ  
【自由】4,500円(当日500円増)【好評発売中】

5月21日(木) 19:00～  
**増尾好秋・岡安芳明・井上陽介  
ダブルギター・スーパートリオ**  
☆増尾・岡安のダブルギターに井上のスーパートリオ  
【自由】3,500円(当日500円増)【好評発売中】

マーク：託児サービスがあります。(要予約)  
※公演日の1週間前までにご予約ください。

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは  
**チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)**

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520  
3月の休館日はありません。  
※10日(火)～同12日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

## 直弼発見! 巻の6

3月13日(金)～4月14日(火)

### 「井伊直弼の 甲冑と刀剣」

直弼が藩主就任に際して新調した甲冑と指料や、居合の鍛錬に用いた刀を紹介します。

▶井伊直弼所用具足 (彦根市指定文化財)



ギャラリートーク

### 「井伊直弼の甲冑と刀剣」

3月14日(土) 14:00～15:00

解説：本館学芸員 坪内広子  
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です

## 直弼のころ

幕末の大老、井伊直弼(1815～1860)は、国政を担う政治家として

知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などにひたむきに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。

このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

3月11日(水)～4月13日(月)

### 白楽蛤香合 井伊直弼作

直弼が青年時代に習い覚えた楽焼で自らつくった香合です。



市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294  
3月の休館日：3(火)・10(火)・17(火)  
・23(月)・24(火)・31(火)

15日(日) 10:00～12:00 ※雨天中止

### フレッシュスポーツデー ウォーキング

コース 市民体育センター周辺  
集合場所 市民体育センター玄関  
参加費 小学生以上1人200円  
申込方法 前日までに電話ファクスで申し込んでください。

その他 歩きやすい服装と靴で、飲み物を持って、参加してください。

# とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

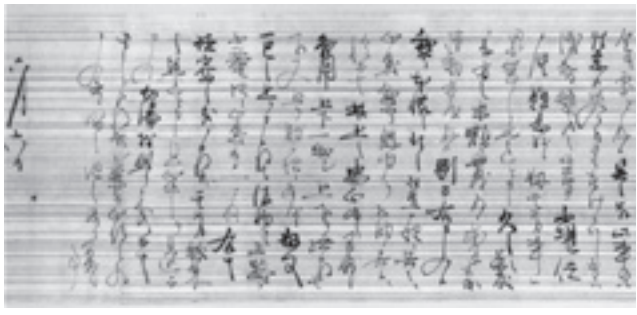
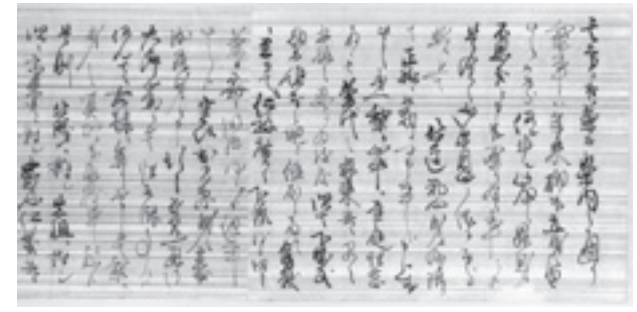


第151回

## 井伊直弼の決意表明

彦根藩主井伊家に伝来し、現在、彦根城博物館所蔵の「彦根藩井伊家文書(重要文化財)」には、300通を超す井伊直弼自筆の手紙が伝わっています。手紙の主な相手は、腹心であった長野

主膳(義言)のほかに、彦根藩士犬塚外記、安東七郎右衛門、福田寺(米原市)住職であった従兄弟の撰専ら、直弼が若い時期に交流の深かった人物たちです。本来ならば、直弼がよそに宛てて出した手紙ですから、井伊家に残るものはありません。実は、大半の手紙は一部の下書きを除いて、直弼の死後に右の人びとの家から収集され、井伊家に保管されることとなったものです。彼の手紙は、心情を細やかに綴った内容のものが多く、微妙な心の動きや、物の考え方を知らうえ



▶井伊直弼書状(弘化3年6月6日付け、三浦五郎右衛門宛て)部分

宛てて出した手紙ですから、井伊家に残るものはありません。実は、大半の手紙は一部の下書きを除いて、直弼の死後に右の人びとの家から収集され、井伊家に保管されることとなったものです。彼の手紙は、心情を細やかに綴った内容のものが多く、微妙な心の動きや、物の考え方を知らうえ

史料となっています。今回紹介する手紙は、直弼が彦根藩の世継ぎとなつてから5か月後の弘化3年(1846)6月6日、彦根藩士の三浦五郎右衛門に宛てて書かれた(写真)。三浦は、藩の奥向きの御用を司る用人役を通算40年近く勤めることになる人物で、直弼から厚い信任を得ていました。手紙の中で、直弼は、近い将来、大名になるであろう我が身に關し、ある決意を表明しています。直弼は最初に、自分が世継ぎになつたことを、「年来、いささかも立身の望みがなかつたところ、この度の昇進は不思議」であり、將軍、藩主井伊直亮らの厚い「恩」によるものであると述べ、「恩に応えるために、幕府への勤めを正しく行うこと」のほかに、第一に、譜代の家来に早々に「安穩」の思いをさせ、第二に、彦根藩領に住むすべての者に仁政(情け深い政治)を施すために、密かに日々鍛錬しているとします。さらには、自身が「ゆくゆくは世間一通りの大名の心懸けではすまない」とも述べています。このように、直弼は、世継ぎとなつて間もない

時期から、自分が藩主となつた日のことを考え、あるべき藩主像にむけて努力することを誓っていたのです。ただし、直弼がこのような表明をするのには、藩主である兄直亮に対する考えがあつたと思われまふ。当時の直亮は家臣を嫌い、逆に家臣たちも直亮への不信感がありました。直弼自身、兄の行動に頭を痛めていました。直弼が「家来の安穩」を願つたのは、右のような事情があつたからです。兄を反面教師にしながら、藩主としてのあり方を見いだし、自らの藩主像を育んでゆく。この手紙は、藩主直弼の自己形成の過程を考えるうえで重要な内容をもつたものです。(彦根城博物館学芸員 渡辺恒一)

写真の作品は、常設展「ほんものとの出会い」で、3月11日(水)～4月13日(月)まで展示します(期間中無休)。